

謹 弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

古 谷 浩 昭 氏	宇部市医師会	9 月 25 日	享 年 92
岡 壽 士 氏	下関市医師会	9 月 26 日	享 年 76
黒 田 豊 氏	防 府医師会	10 月 18 日	享 年 72

編 集 後 記

「ケアレス・マン」をご存知ですか。

他人のケアに責任を持つことなど想定外であるような労働者、つまり家庭を顧みず長時間働く男性モデルのことです。「ケアレス・マン」は、本人が誰かのケアをしてないだけでなく、自分のケアを誰かにしてもらっている存在です。妻が育児や介護を担い、日常の家事をこなしてくれば、夫である男性は、自らの時間を最大限、仕事のために捧げることができます。

しかし「ケアレス・マン」を職場の労働者モデルとしてしまうと、働き方が「ケアレス・マン」レベルに達していない労働者を排除してしまう。女性に限らず、病気や障害のある労働者、妊娠・出産する労働者、家族のケア責任を抱える労働者、そういった労働者が「二流労働者」と評価されてしまう。自分自身を振り返っても、これまで多くの時間を育児に費やしてきたことが、医師として肩身の狭い理由の一つとなっているように感じます。

その反面、子育てによって仕事以外の時間や同業者以外の知人を持つことになり、単調であった自分の人生に濃淡ができました。「ケア時間」は人間にとって必要な時間なのでしょう。妻にケアされている男性医師にも離婚、家族の病気、親の介護という問題に直面する可能性があります。そのような事態を許容でき、対応できる職場なら、だれもが楽に働き生きることができます。

医療現場でそれを実現するのは、他の業種より一層困難ではありますが、さまざまな事態に直面した人を孤立させないように、現在の医療界に変革が起きていると信じています。

参考：『呪いの言葉の解きかた』上西充子 晶文社

(理事 長谷川 奈津江)